第２回 北海道東部の竪穴群調査懇談会 議事概要

１　日時及び場所

日時：平成２８年９月１５日（木）　１５時００分から１６時３０分

場所：湧別町　文化センターさざ波　会議室

２　出席者

〈構成員：２名〉

熊木俊朗 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（座長に選出）

椙田光明 元ポー川史跡自然公園長

〈公益財団法人北海道埋蔵文化財センター：１名〉

田口普及活用課長

〈湧別町教育委員会〉

牧野教育長、田中湧別町図書館・ふるさと館 JRY 館長、中島副館長、林学芸員

〈北海道教育委員会：２名〉

中田主査、村本主任

３　意見交換

〈話題提供〉

椙田氏が「標津町の竪穴群調査」と題して話題提供を行った。

・標津町では、古くから竪穴群の存在が知られており、昭和５０年代初期から竪穴群の調査を継続し、調査成果を基に史跡整備を行ってきた経緯がある。

・一連の調査（分布調査、測量調査、試掘調査等）によって、標津町における縄文文化（早期・中期）、擦文文化、トビニタイ文化等の竪穴群の様相が明らかになりつつある。

・測量調査の際には、地表面観察を入念に行い、遺構周囲の形状を捉えることが極めて重要である。

・竪穴の時期判断、構築過程の把握には発掘調査が必要な場合があり、効果的に行う必要がある。

公益財団法人北海道埋蔵文化財センターによる湧別町「シブノツナイ竪穴住居跡」（道指定史跡）の調査について報告が行われた。

・前年度からの測量調査を継続し、竪穴の配置状況に加え指定地域外の竪穴の存在が明らかとなってきた。

・次年度は、竪穴群全体の測量を完成させるとともに、試掘調査を実施する予定である。

以上の話題提供を受けて、次のような意見交換が行われた。

〈出席者の主な発言〉

シブノツナイ竪穴住居跡の調査について

「測量調査によって、竪穴の形態ごとにどのような分布が認められるのか、またはこの竪穴群に特徴的な傾向が見出されるのか、今後明らかになれば良いと考えている。」

「今回の意見交換で得られた知見を次年度以降の調査に反映させたい。」

シブノツナイ竪穴住居跡の保全について

「シブノツナイ竪穴住居跡は、牧草地として使用されていることから、竪穴が少しずつ変形している。」

「土地所有者や保護行政をはじめとする関係者で現状・問題点を共有し、遺跡の保存・活用について今後の方針を話し合う必要があると考える。」

シブノツナイ竪穴住居跡の周知・成果公開について

「地域住民へ竪穴群の周知が肝要と思われる。」

「今回の調査成果を町民に発表する機会を設け、遺跡の周知を行ってほしい。」

「調査成果を町民に公開することは、遺跡保護のきっかけになると思われる。」